

INDEX

- p1 第3回「女性の健康週間 県民公開講座」の報告
- p3 「天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップに参加して」
- p4 第15回男女共同参画フォーラム
「男女共同参画のこれまでとこれから -さらなるステージへ-」 参加報告
- p5 第4回医師の勤務環境改善ワークショップ 報告
- p6 シリーズ女性医師支援 女性医師支援 当財団での取り組み〔岡山リハビリテーション病院〕

第3回「女性の健康週間 県民公開講座」の報告

岡山市立市民病院／岡山県医師会女医部会部会長 坂口 紀子

厚生労働省のホームページによれば、「女性の健康週間」は毎年3月1日～8日とされており、「女性が生涯を通じて健康で明るく充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援する」と記されています。岡

山県医師会でも、この趣旨に賛同し、2017年3月から女医部会が企画・運営を行って県民公開講座を開催してきました。振り返って、2017年の第1回講座は骨粗鬆症に関連した講演と、骨に良い料理レシピも紹介されました。昨年の第2回は認知症の話題でした。第1回以降、当日会場でアンケートに回



渡邊豊彦先生



神崎寛子先生



井上雅先生

答頂き、聴講希望分野が多かったものの中から、次の講演のテーマを選んでいきます。

今年は3月10日（日）が開催日で、テーマは「スッキリ暮らそう おしもから」でした。内容は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学准教授・渡邊豊彦先生の「快尿！おしっこ問題、男と女」、岡山県医師会専務理事／神崎皮膚科院長・神崎寛子先生の「体幹をつくろう part2」、みやびウロギネクリニック院長・井上雅先生の「目からウロコ!! 意外と知らない女性のオシモのはなし」でした。お陰様で毎回三木記念ホールが満席になり、4階の会議室をサテライト会場にしてきましたが、今年も同様の盛況でした。



満席の三木記念ホール



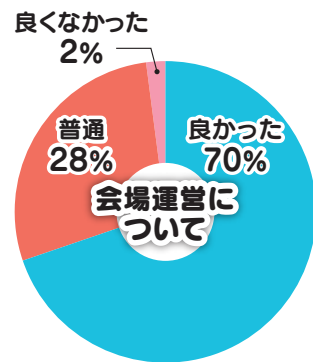
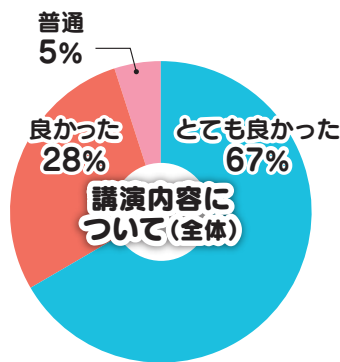
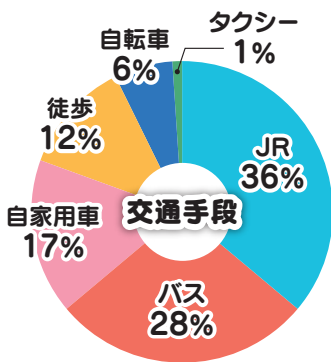
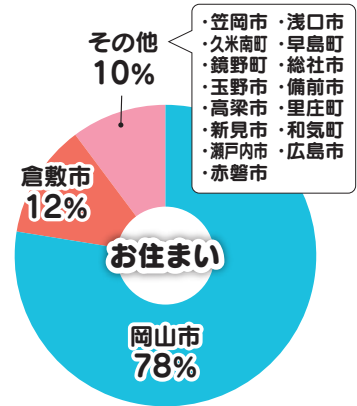
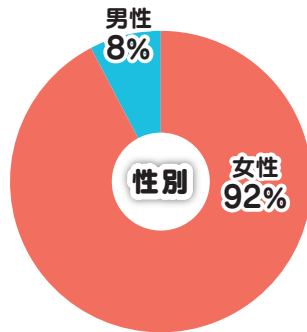
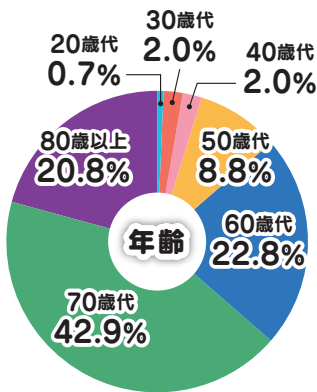
受付の様子



サテライト会場(4階 会議室)

アンケート結果の一部をグラフでご紹介します。また、自由記載を見ますと、デリケートゾーンの問題は、「相談しづらい」と感じていた方が予想通り多く、「気になっていたことが解って良かった。」という感謝の言葉が、例年にも増して多く記されていました。

この講座が健康に関心を持っていただくきっかけとなること、治療が必要なレベル未満の気になる症状に解決の手がかりを与えること、あるいは受診勧奨の後押しをすることなどを願って、これからも企画運営していきたいと考えております。



次回の講座は、令和2年2月24日（月・振休）、めまいと耳鳴りをテーマに、ゆうえん医院・結縁晃治先生と岡山大学耳鼻咽喉科・菅谷明子先生を講師にお招きして開催する予定です。引き続きご協力の程よろしくお願いたします。

「天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップに参加して」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座 助教／
医療人キャリアセンター MUSCAT コーディネーター 渡邊 真由

第1回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ「ゆっくりでも良い、指導医になろう」が2019年3月21日に開催されました。女性医師のキャリア形成にご尽力されている医師会、行政、各大学、および病院の方々に、岡山県のみでなく、東京都、三重県、広島県など他県からもご参加いただきました。



大賞：岡田あゆみ先生

岡田あゆみ先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学 准教授）が栄えある第1回天晴れジョイボスアワード大賞を受賞され、いかに現在のキャリアを形成されてきたかを、ご専門とされている心身医学の観点から

「共に悩み共に育つ—心身医学キャリア形成—」についてご講演いただきました。先生御自身が各ターニングポイントで周囲の方々からいただいた言葉（代わりのいない仕事はない、10年後どうするつもりか考えているの、身体は大切にね、など）によって現在が形成されており、現在は後輩の指導を行いながら後輩と共に育っていると話され、周囲に支えられキャリア形成はなされるのだと非常に感銘を受けました。

庵谷千恵子先生（川崎医科大学総合臨床医学講師）が天晴れジョイボスアワード奨励賞を受賞され、「女性医師であることを楽しむ」についてご講演いただきました。女性医師とひとくりにできるものではなく、その生き方には多様性があり、各個人にとってどの選択肢が正解なのかは異なり、女性医師支援とは、支援される側が「自分自身が、医師とし

て、人として、どうなりたいのか」を確認し、支援する側はそれに対して何ができるかを一緒に考えることと締めくくられ、双方の立場を知っておくことで、その支援がより効果的になる重要な見解を伺うことができました。



奨励賞：庵谷千恵子先生

受賞講演の後に受賞された先生方を交え、「様々な女性医師のキャリアスタイル」について、どう勤務を継続し、指導医を目指してもらえるか解決策を考える、グループワークを行いました。指導医や研修医、支援を受けている側、支援する側など様々な立場から意見が伺え、各Caseに対して、指導医としてどう接するべきか、当事者が自身で行えることなどの点について、有効な解決策を立案することができ実りあるものとなりました。



グループワーク

この会が成功の内に終わられたのも、偏に受賞された先生方や、ご参加いただいた先生方、他職種の方々のおかげと感謝しております。女性医師の割合が年々増えていく中で、この会が今後も益々発展し、続いていくことを祈念しております。

第15回男女共同参画フォーラム「男女共同参画のこれまでとこれから -さらなるステージへ-」 参加報告

岡山市立市民病院／岡山県医師会女医部会部会長 坂口 紀子

期 日：令和元年7月27日（土）

会 場：仙台勝山館

全国を巡って、男女共同参画にかかる諸問題を検討、討議する場が持たれる本フォーラムですが、今年の担当は(公益社団法人)宮城県医師会でした。

私事ながら、前回、仙台を訪れたのはずっと以前のことで、東日本大震災後8年を経て、仙台の街はどう変わったのだろうかと思ひながら、仙台空港に降り立ちました。大震災時に津波浸水で悲惨な状況が報道されていたターミナルビルは、きれいに修復され、七夕飾りとご当地キャラ「むすび丸」が出迎えてくれました。仙台空港鉄道に乗るのも初めてで、仙台駅も以前とは様子が変わり東北の玄関口らしい様子でした。

さて、フォーラムの内容ですが、今回の基調講演は東北大学加齢医学研究所・遺伝子発現制御分野の本橋ほづみ教授によるものでした。

高齢化が進行するわが国で健康長寿を実現させる

ためには、生体分子の酸化傷害をいかに回避するかという課題が生じ、先生は酸化ストレス応答のカギとなる転写因子NRF2遺伝子に関する研究を行っていらっしゃいます。当初、外科学の博士課程で研究生活に入られた後に、遺伝子研究にかかわるようになった経緯、研究指導を受けた恩師との出会いなどキャリアパスのご紹介と、ご主人、息子さん、ご両親との関わりを交えながら講演されました。研究内容については、門外漢の私には十分理解できないところもありましたが、研究に対する熱意が伝わってくる内容で、興味深く聞かせていただきました。



本橋ほづみ先生



次に、日本医師会男女共同参画委員会、女性医師支援センター事業の報告が行われました。

そして、シンポジウムが3つのタイトルで行われました。

最初のテーマは「新専門医制度に抱く期待と不安」で、医師会常任理事、初期研修医2年目、医学部6年生の3名の女性が発表者でした。プログラム制への移行に伴って生じる問題、すなわち妊娠などライフイベントによる研修中断は休止届を出して、後に研修再開ができるが、研修施設の移動が必要な事態にはどう対応すればよいか、専門医を取得後の医師、研修医、医学生ともに不安を抱えているとの発表でした。過渡期の専門医制度に対して、問題点や不安点を当事者から声を上げる必要がある、また、多様なロールモデルが求められ、専門医育成は男女共同参画と切り離せないという結論となりました。

2番目は宮城県医師会女性医師支援センターの高橋克子センター長からの、2019年3月の男女共同参画推進に対する取り組みについてのWEB調査の報告でした。5年前の調査と比較して、データの数字は各項目で改善していました。

そして3題目は、女性外科医の育成に関して、自治医科大学附属さいたま医療センター、一般・消化器外科、力山敏樹教授が教室内で行っている女性医師支援の方策を紹介されました。

最後に、男女共同参画フォーラム宣言が採択され、今年の会議は幕を閉じました。

第4回医師の勤務環境改善ワークショップ 報告

平島クリニック/岡山県医師会女医部会委員 吉岡 敏子

日 時：令和元年8月18日(日) 14:00～16:15

会 場：岡山県医師会館

女医部会より神崎専務理事、坂口部会長、渡邊副部会長、金重委員、石井委員、溝尾委員、杉原委員、新津委員、吉岡が、全体では勤務医部会、病院の管理者の先生方がご参加でした。

松山県医師会長の挨拶に続き 勤務医部会長清水信義先生と女医部会長 坂口紀子先生がそれぞれ平成30年度事業報告・令和元年度事業計画を報告されました。



神崎寛子先生

岡山県医師会神崎寛子先生より「勤務環境改善に関する労働法規について(特に女性医師関連)」を「法律の使える管理者になろう」とのスライドで具体的にご説明があり、岡山県の女性医師支援活動の一環

として「第1回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ「ゆっくりでも良い、指導医になろう」」の報告をされました。

「医師の勤務環境改善へ向けた岡山労災病院での取り組み」を岡山労災病院女性のための総合外来部長 田端りか先生が事例発表されました。タイ

ムレコーダーの設置、長時間勤務の医師について衛生委員会での議論と必要に応じ産業医の面談、半日休や時間年休の導入、事務職や看護師の育成によるタスク・シフティング推進など医師業務軽減、短時間勤務制度の導入、院内保育所、病児保育所の設置など勤務環境の整備中との事です。

コメンテーター岡山県医療勤務環境改善支援センター医療労務管理アドバイザー 佐田俊彦先生より医師の時間外労働時間上限規制の現状、労働時間管理は管理職の責務である事などにつきコメントがありました。

最後に「働き方改革・医師の勤務環境改善」と題して日本医師会常任理事 松本吉郎先生より働き方改革関連法の概要、医師の働き方改革検討会報告書の概要(労働時間中の宿日直、研鑽の扱い方、応召義務のあり方)、医師偏在対策(将来の人口減少に伴い医療ニーズが減少する可能性、岡山県



田端りか先生



松本吉郎先生

は人口比医師数で全国5位と多い事)、今度の取り組みをテーマに特別講演をいただきました。

神崎先生、松本先生のご講演はスライドもそれぞれ80～90枚と多く、とても充実したご講演内容で勤務環境につき大変勉強になりました。



女性医師支援 当財団での取り組み

公益財団法人 操風会 岡山リハビリテーション病院 病院長 十河 みどり先生



2019年4月より当法人は、一般財団法人から公益財団法人に移行しました。公益財団法人に移行したこともあり、岡山リハビリテーション病院と岡山旭東病院とその他関連施設は、今まで以上に協力体制を強化して組織の再編成を進めているところです。当公益財団法人の目的は、主に脳・神経・運動器の疾患について、予防・急性期・回復期・在宅復帰するまで、全人的医療・介護を提供する活動等を通して、地域医療体制の向上を図ることとしています。職員数は旭東病院487名、岡山リハビリテーション病院241名、その他関連事業所が65名です。これまで当法人は、就業規則や勤務体系などそれぞれの病院で異なる規程等での運営となっていました。今後はある程度統一して総合的に対応していきたいと考えております。

病院や医療・介護の現場は、働く職員の女性の割合が高く、若いスタッフが多いこともあり、結婚・出産・育児がつきものになっているのが現状で、今年度は当院でも約20人が産休・育休に入ります。そのような現実を踏まえ、子育て支援に積

極的に取り組む組織づくりを目指し、当院では9年前に次世代育成支援対策推進法に基づき行動計画を策定して「くるみん」の認定を受けました。さらに同法人の岡山旭東病院は特例認定の「プラチナくるみん」の認定を受けています。今後さらに職員が出産・育児を続けながら仕事が継続できるよう、今以上に安心して子育てができる環境を提供できる仕組みづくりを整備する必要があると思っています。その中で女性医師も同じで、子育てと仕事を両立させるための仕組みを探りながら仕事を続けることができれば、出産を契機に離職したり、元の職場に戻りにくくなる女性医師を減らすことが可能だと思います。しかし、特に中小病院では産休中の医師の補充は困難であることが多く、診療科にもよりますが、周囲の同僚の多大な協力と理解が必須です。岡山リハビリテーション病院に勤務している女性医師は、子育て真っ只中を過ぎて幼い時ほど手がかからなくなっているという場合が多かったのですが、子供が学生である場合や介護が必要な家族がおられる場合もあり、入職時から当直を免除していたり土曜休みの希望がある場合は認めていました。その後、若い女性医師が来られることになりましたが、保育所に通っているため、短時間勤務で勤務曜日も臨機応変に対応し、業務内容も無理のないように相談をして決めていきました。決めていくにあたり、子供の成長に合わせて勤務形態をある程度変更できることが重要だと実感しました。また、そのためには周りの職場の同僚の理解とサポートが必要です。今と時代が違いますが、当院の還暦を過ぎた女性医師3人が今まで永年仕事を続けてこられた理由を考えたときに、



- ①子育ての大半を任せられる家族がいた
（母親など）
- ②子供がある程度大きくなってから（高校生）、
仕事を再開した
- ③周りの協力体制の充実、家政婦さんなどの
存在
- ④保育所、学童保育などが充実していて
利用しやすかった
- ⑤家族の協力と理解があった
- ⑥産休中の職場の理解とフォローがあった
- ⑦できるだけ早く復帰した



その当時も今も大きな違いはありませんが、

・ **子供がまだ小さい場合**

短時間勤務、ある程度フレキシブルな勤務を認めており、当直、オンコールなどは免除。病棟主治医にはならない。緊急な休みにはフォローに入る体制を取っておく。

・ **子供が成長していく過程では**

保護者会、進路指導、参観日、学校行事、塾・おけいこ事、スポーツ少年団、地域子供会、

発表会、運動会、入学式、卒業式など多くのイベントがあり母親の出番はかなり多くそのたび有給を取ることとなり、幼少期の感染症、予防注射などでも休みを取ります。

仕事もちろん大事ですが、守るべき責任のある家族と子供を大切にしてほしいと思います。また今後は職員自身が疾病や障害を持ち、治療を継続しながら仕事を続けられるような仕組みも考えていく必要があると考えております。



令和元年11月～令和2年3月

岡山県医師会女医部会 関連行事

11月

- 10日(日) **おかやまマラソン(救護室応援)**
岡山県総合グラウンド
- 10日(日) **日本医師会女性医師支援センター事業中国四国ブロック会議**
ホテルグランヴィア岡山
- 17日(日) **第10回岡山MUSCATフォーラム**
地域医療人育成センターおかやま

12月

- 14日(日) **女医部会委員会**
岡山県医師会館
- 15日(日) **山陽女子ロードレース(救護室応援)**
岡山県総合グラウンド
- 15日(日) **第2回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ**
岡山県医師会館

2月

- 24日(日)・振休 **女性の健康週間 県民公開講座「耳鳴り・めまい・難聴などの話題(仮)」**
岡山県医師会館

編集後記

今年は岡山では幸い大きな被災が
なくすみましたが、九州や東日本など
では大雨や台風などの被害も大きく、
地球環境の変化に伴う自然災害の怖
さを強く感じます。岡山でも昨年の被災からの完全復
興は叶っておらず、まだまだ気が抜けません。各都市、
1日も早い復興をお祈りいたします。

超高齢社会、人口減少期に突入した今、女性の
力がますます期待される時代になって参りました。男
女共同参画社会基本法が平成11年に施行され、ちょ
うど20年が経ち、企業では女性の管理職が増え、活
躍する女性が増えてきています。岡山でも女性医師の
働き方を考える機会が多くなり、岡山大学では全国的
にも先立って女性医師枠(現医師支援枠)を含めて
女性がキャリアを継続しやすい環境作りに力を入れて
います。

しかし一方で自分が医師になった約40年前と比べて、
どれほど女性にとって働きやすくなっているのかと考

る機会も増えました。必要とされる知識や要求される
技術は増える一方で、男性が育児に参加する割合が
増えたといっても、女性が家庭に期待される役割はな
かなか少なくなはなりません。2017年から始まった新専
門医制度も、科によっては資格の取得や維持継続が
難しくなる可能性もあり、専門医取得の時期と結婚出
産の時期が重なりやすい女性にとっては、本人だけで
なく周囲も悩みの尽きないところです。

また働き方改革の波が医師の世界にも広がってき
ています。今まで、労働基準法などとは一線を画してブ
ラックボックスのようであった医師の世界も、一人一人
の負担を減らそうという波が来ているようです。まだ
現場との意識の違いが大きく先行きは不透明ですが、
様々な働き方を含めて女性医師の力が必要とされるこ
とは間違いありません。これから女性医師同士、個
人としても会としてもバックアップしていける社会にな
るよう、期待するとともに努力していきたいと思

岡山県医師会女医部会委員 齋藤稚里